



「57.11ダイヤ」=52名の要員削減を撤回せよ



82.9.11

No. 1144

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五六(公衆)品三三二七二〇七

「検修下廻り部外委託」攻撃と実施時期を合わせ、運転転
場210名の要員削減を狙う大合理化を許すな！

9月6日、当局は「57.11ダイヤ改」について要員削減も含めた具体的提案を行ってきた。「57.11ダイヤ改」は、「検修下廻り部外委託」と実施時期を合わせ、更に今年度末に具体化する事が想定される「内達改悪」も加え、「35万人体制」の集大成として、われわれの職場を徹底的に合理化し、一変させようとする恐るべき攻撃の一環である。動労千葉は、この人減し合理化提案に対し、断固撤回を要求し当局を追及した。

「人減しのための」人減し合理化

「57.11」は、貨物輸送については、一九八五年度の予定を繰り上げて今「時改」に実施しようとするものであり、全社的には貨物営業キロ41万キロ↓37万キロ、貨物駅1200駅↓800駅、操車場150所↓100所に削減するものである。

千葉局の提案内容は、我々の転場に於て機関士29名減、電車運転士6名減、列車乗務員5名減、検修要員関係12名減、計52名減に及ぶ人減し計画であり、「検修下廻り」合理化を合わせると運転関係だけで更に210名にもなるというものである。

やみくもに攻撃を拡大！「20万人台体制」へのステップ狙う

さらに容認できないことは、貨物列車切り捨てと急行列車の特急置き換えに便乗して運用合理化・要員合理化を策動していることである。内勤・外勤・技術掛更には事務掛までも削減しようとするのは、まさに当局の側からする「20万人台体制」への大きなステップとして位置づけられていることは明白である。

作業実体、運転保安を完全に無視

動労千葉は、当局に対し大要次の主張を展開した。即ち、①提案内容は単なる「時刻改正」とは受けとめられない。当局は今春以降の「ヤミ・カラ」という労働組合攻撃に悪のりし、労使確認事項まで一方的に破棄するなどということに加え、生産現場の業務上の実態や運転保安・作業安全などを無視して合理化を強行しようとしてきている事

は断じて許せない。②提案内容は貨物の切り捨てであり「57.11」検修下廻り「内達改悪」を合わせ、転場勤務形態などを全く新しい内容に組み変えるものであり容認できない。③この向の合理化強行により随所に弊害が生じており、「規定」を厳守すれば事実上安全な業務の遂行ができない等、運転保安上問題がある。④我々は常に刑事罰を追及される状況で仕業をしているのであり、この様な提案は納得できない。

転場闘争と交渉を更に強め、断固粉碎せよ

国鉄再編合理化攻撃の基本軸は、①新幹線都市間旅客輸送②大都市圏通勤通学輸送③大量定型拠点間貨物輸送の3部門は徹底合理化し、ローカル線(旅客貨物)は切り捨て、地上勤務の外注化、内達改悪による乗務員運用効率の高度化(働き度を高める)を推進し、「20万人台体制」を狙うものであり、同時に「現協改悪」に見られるように国鉄労働運動を解体し、「御用組合」「産業報国会」への変質を狙っている。

特に、「働こう運動」を叫び、「フルトレ手当返着」の裏切り、「現協改悪」の困交にいち早く応じ積極的に当局・臨調の手先となった動労「本部」革マルの裏切りを、我々は絶対に許してはならない。

全国鉄労働者の総決起によって「57.11ダイヤ改」攻撃をはじめとする大合理化攻撃、いよいよ本格化する臨調・行革攻撃「国鉄労働運動解体攻撃」を粉碎するために、転場からの総決起をつくりだしていこう。